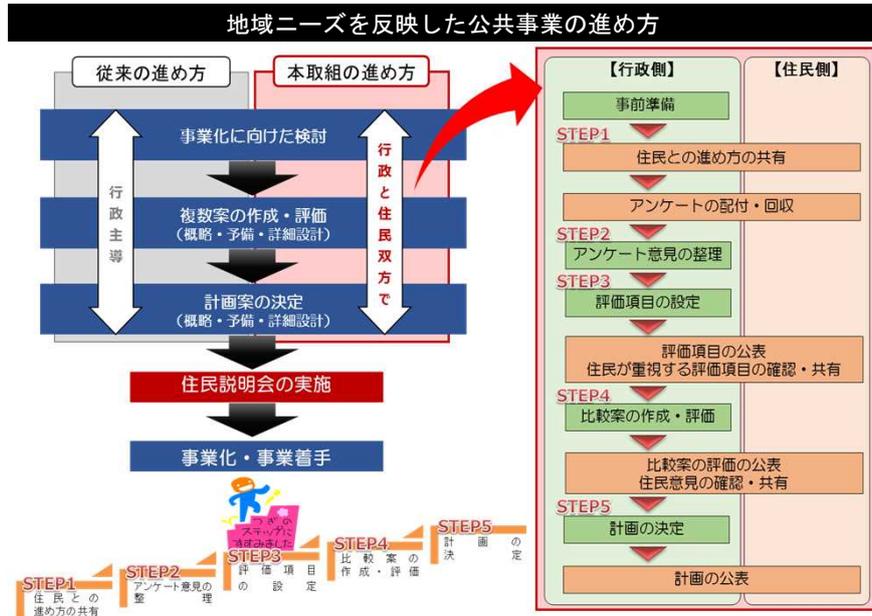


コラム①. 社会資本整備の取り組み方を変える

① 「地域ニーズを反映した公共事業」の推進

「より良い計画」を策定するためには、計画の決定プロセスの透明性の向上を図り、多様な地域ニーズを的確に反映する必要があります。そのため、計画案を県が決定する前にアンケートなどにより、地域ニーズを把握し、計画に反映させる「地域ニーズを反映した公共事業」に取り組みます。



令和5年度は、交通安全対策の1事業とがけ崩れ対策の1事業で「地域ニーズを反映した公共事業」に取り組みました。

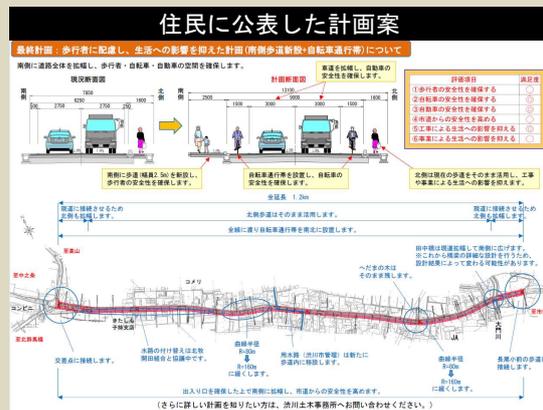
令和6年度については、交通安全対策の3事業、がけ崩れ対策の2事業、バイパス整備の1事業で取り組む予定です。

国道353号（北牧工区） 歩道整備事業

令和4年度に国道353号（渋川市）で実施した「地域ニーズを反映した公共事業」の事例です。

本工区は、近隣の小学校の通学路であるが、カーブが連続して見通しが悪いことや、すれ違いが困難な狭い歩道であるため、地域から広い歩道の設置が望まれていました。

今回、歩道整備事業を実施するにあたり、周辺住民にアンケートを配布し、意見をいただくことで、地域として求めるニーズを把握し、計画に反映するとともに、各検討ステップごとに住民との合意形成を図りながら、歩道整備計画を策定しました。



②民間活力導入の推進

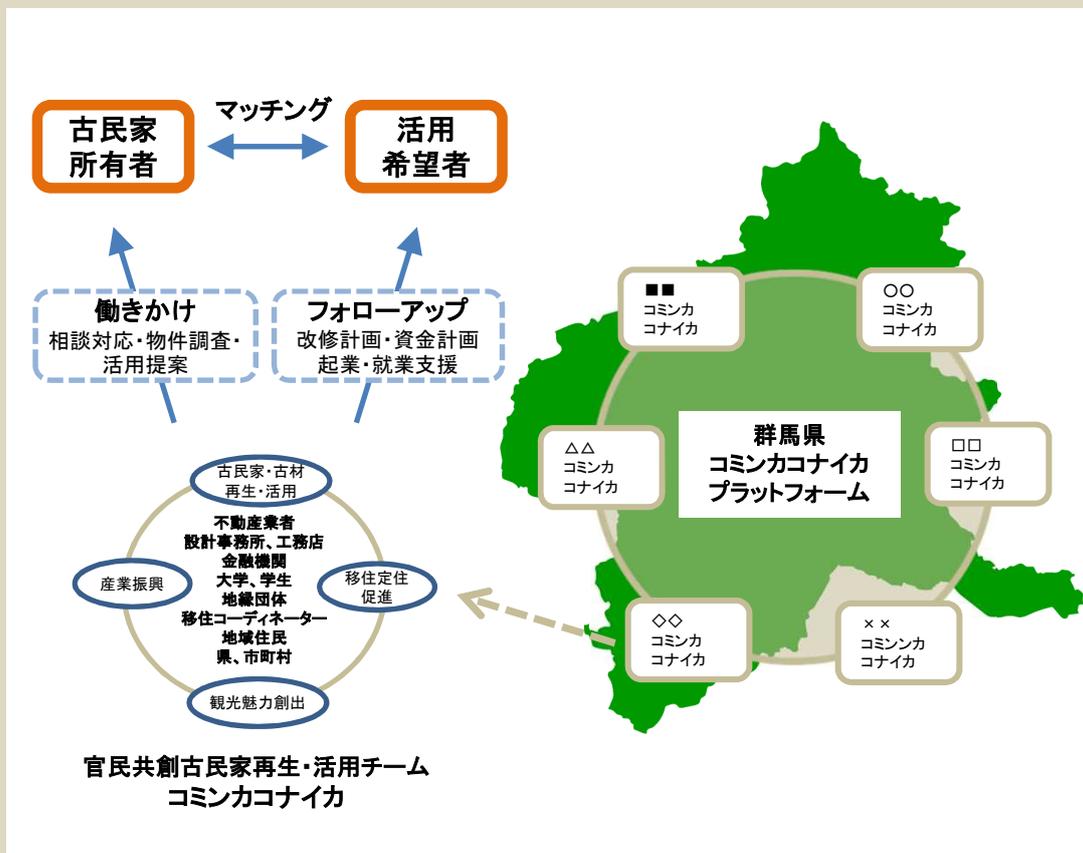
多様化する県民ニーズに対応するため、民間の力を積極的に活用することで、県民サービスのより一層の向上に努めます。

(1)官民共創による古民家再生・活用の推進

県内各地に官民共創の古民家再生・活用チーム「コミンカコナイカ」を組織し、「コミンカコナイカ」の活動により、群馬県の地域資源である古民家を活用した魅力あるまちなみの創出やまちの活性化、官民共創コミュニティの醸成を図ります。

令和5年度は、県内複数の地域で「コミンカコナイカ」の準備組織を設置し、古民家活用のマッチングに向けて物件の掘り起こしを行うとともに、事業ブランド化を図るために、ロゴやWEBサイトの作成等を行いました。

コミンカコナイカによる古民家再生・活用推進のイメージ



古民家再生事例



古民家再生事例



古民家活用事例



③ Society5.0の実現に向けたDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

(1) 県土整備プランDXアクションの推進

群馬県では、2023年までに最先端のデジタル県になることを目指しており、県土整備部においてもDXを推進しています。限られた人員や財源で「ぐんま・県土整備プラン2020」を着実かつ計画的に推進するため、県土整備分野のDXに係る方針や施策、工程などをとりまとめた「県土整備プランDXアクション」を令和3年11月に策定しました。

今後、県土整備プランDXアクションに基づき、県土整備分野のDXを推進するとともに、DX推進の「3つの観点」と「8つのアクション」により、課題解決に向けた新たなDXの取組の立案・推進に努めます。

県土整備プランDXアクション

限られた人員や財源で「ぐんま・県土整備プラン2020」を着実かつ計画的に推進するために

県土整備プランDXアクション

失敗を恐れず、DXへ挑戦する風土づくりを目指して



詳しくは
こちら

R3年11月
群馬県県土整備部

【3つの観点】



【8つのアクション】

1. わかりやすい情報の発信
2. 点検・調査・監督・維持管理業務等の自動化・省力化・高度化
3. 建設現場における作業の自動化・高度化・支援
4. データの蓄積・利活用
5. 非接触・リモート型への転換
6. 手続きのデジタル化・オンライン化
7. 誰もが移動しやすい環境の整備
8. 人材・産業の育成・支援

主な事例

カメラ画像のAI解析を活用した交通量調査・道路状況の状態監視

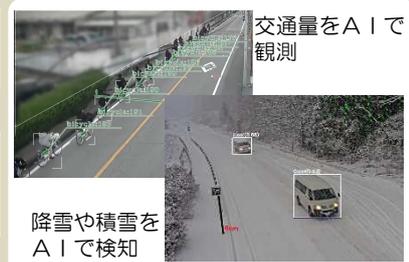
カメラ画像をAI解析するという仕組みを活用することで、交通量調査を自動化し、調査員不足の解消、調査の効率化や精度向上を図ります。さらにこの仕組みで、積雪・冠水情報配信などの維持管理分野のDXや渋滞緩和を目指すTDM施策にも取り組みます。

D (デジタルにより)

- ① 人手より詳細かつ精度の高い交通量データの自動作成
- ② AIによる道路状況の状態監視や動画配信

X (どう変わるか)

- ① 交通量調査の効率化や精度向上
- ② 異常気象時のパトロール業務軽減や事故等の抑止
- ③ 渋滞箇所を迂回する等の行動変容を促し渋滞が緩和



【スケジュール】

2021年度				2022年度				2023年度				2024年度				2025年度			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
AI解析精度向上・常時観測導入検討・システム開発構築 ・交通量観測・データ収集												交通量調査 試験運用				交通量調査 本格運用			
												降雪・冠水 試行検証				降雪・冠水 試験運用			
												渋滞緩和 試行検証				渋滞緩和 試験運用			

【試行結果】

- ・【全国初】AIが歩行者・自転車を含め7区分で交通量観測を実施。
- ・【全国初】AIが積雪深の観測や車両スタックを検知し、関係者へメール・電話で自動通知。

④わかりやすい情報発信による県土整備行政の見える化

県民との信頼関係の構築や社会資本整備に対する理解促進を図るため、計画の策定から事業の実施、完成後の評価・検証に至るまでの、社会資本整備の全てのプロセスにおいて「見える化」を積極的に推進します。

(1)ストック効果の見える化

「ストック効果事例」の作成により、社会資本の必要性や重要性をわかりやすく県民に「見える化」します。

○ストック効果とは

社会資本が整備・蓄積されることにより機能することで、継続的かつ中長期にわたり、地域経済の発展や県民生活の向上をもたらす効果のこと。

耐震性の向上や水害リスクの低減による「安全性の向上効果」や、生活環境の改善やアメニティの向上による「生活の質の向上効果」のほか、移動時間短縮等による「生産性向上効果」があります。

(2)事業の目的・進捗状況の見える化

「よくわかる公共事業」の作成により、主要事業の目的や進捗状況等をわかりやすく県民に「見える化」します。

より多くの県民に周知し、さらなる社会資本整備に関する理解促進を図るため、スマートフォン等で閲覧可能な「よくわかる公共事業」のHPにリンクする「二次元バーコード」を積極的に活用します。



(3)建設産業の魅力発信

現場見学会やインフラツーリズムの実施、建設産業の魅力伝える動画の配信など、建設産業や土木施設の魅力を広く県民に伝えることで、社会資本整備に対する理解促進と建設技術者を志す人材の拡大につなげます。

動画については、群馬県公式チャンネル「tsulunos」において、県が製作した番組を配信しています。

ストック効果事例 (上信自動車道)



よくわかる公共事業 (寺沢川)



県公式チャンネル「tsulunos」で動画配信

